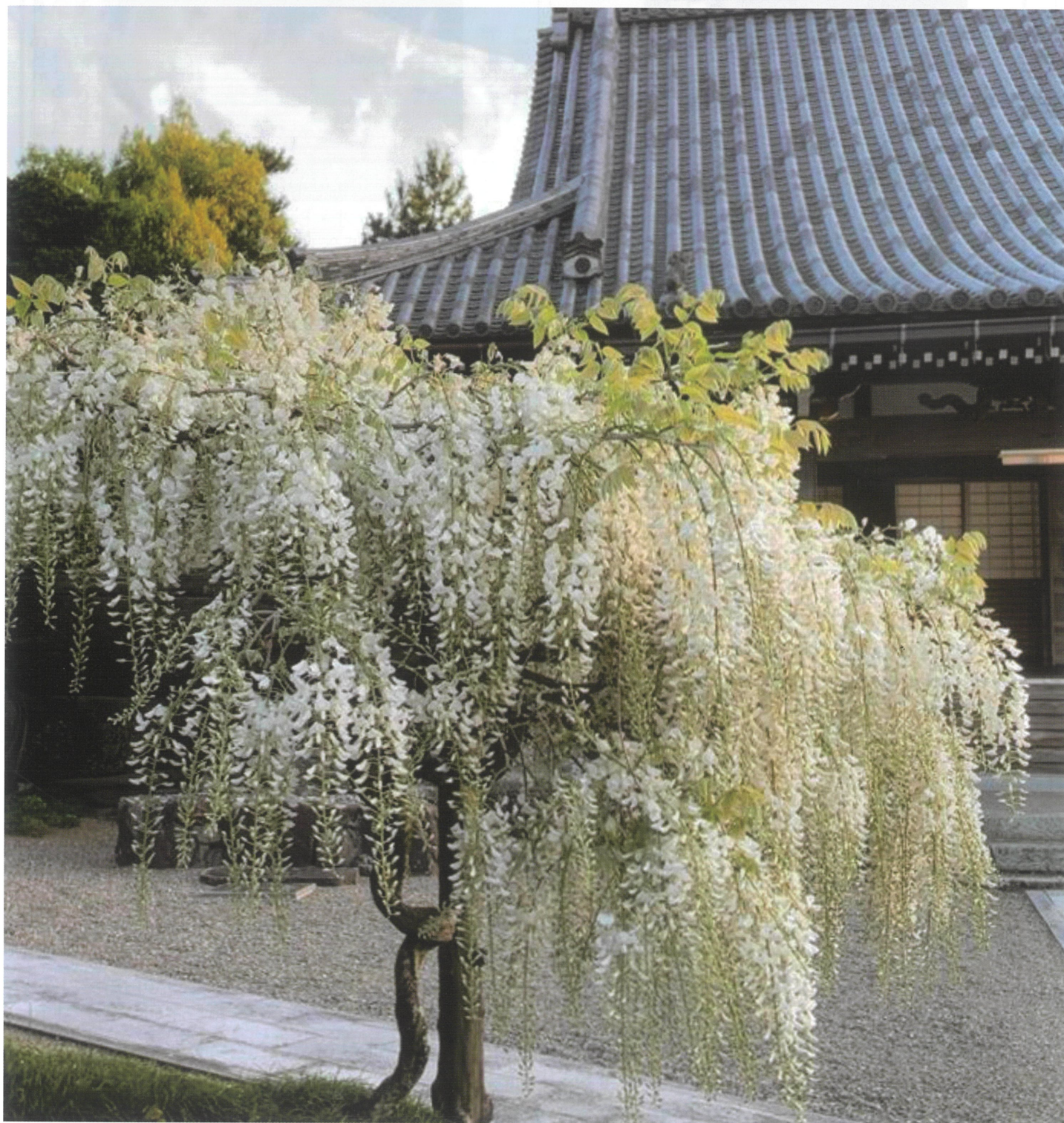


まちづくりの地域情報紙

e-NET EIGENJI **6500**



情報紙 第109号 2023年 7月 1日

浄光寺の白藤 (4月24日撮影)

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP：050-5802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp

まちの話題



自慢の工芸品がずらい 奥永源寺春の工芸市



5月12日から14日まで、蛭谷町の木地師やまの子の家で「第2回奥永源寺春の工芸市」が開かれました。

会場には、県内外の木地師や革職人、木工作家、陶芸家、彫刻家などの工芸作家17人が一堂に会し、自慢の作品を展示販売されました。伝統的な工芸品の他にも手彫りの木製ベット仏壇など、時代に合わせた作品も数多く出品され、来場者は直接、作家から作品に込めた思いや制作工程などを聞きながら、お気に入りの作品を探していました。

また、草木で染めた木珠をつなぎ合わせたプレスレット作りや糸ノコ体験などのワークショップ。キッチンカーによるカレーライスやたこ焼き、地元食材を使った弁当の販売もありました。

シロヤシオ・シャクナゲを見に行こう！ 八風峠から石樽峠の登山ツアー



満開のシロヤシオ・シャクナゲ群落を見に行く「八風峠から石樽峠へ」の登山を5月13日に開催しました。

参加者21人は道の駅に集合し、登山口までマイクロバスで移動。中峠まで登ると、白い花を咲かせたシロヤシオが出迎えてくれました。八風峠を經由して石樽峠への稜線は、シロヤシオやシャクナゲの赤や白の花が満開でした。さらに色を付けたツツジやたくさんの草花が参加者の目を楽しませてくれました。残念ながら昼食後は、雨となりガスの中の登山となり、レインウェアを着て帰路に着きました。道の駅では、えんがわ喫茶の皆さんによるホットコーヒーのもてなしで、冷えた体を温めてお帰りいただきました。

ポイ捨て、やめて!! 道路や河川でゴミゼロ大作戦



滋賀県のクリーン条例（ごみの散乱防止に関する条例）に定める環境美化の日（5月30日）に合わせて5月28日、ゴミゼロ大作戦を行いました。

まちづくり協議会環境部の呼びかけで集まった赤十字奉仕団の皆さんや市職員、地域の皆さんら32人が参加し、永源寺支所を中心に3コースに分かれ沿道のごみを拾いながら、ポイ捨て禁止の啓発を行いました。

また、この日は、市や「さわやか環境づくり協議会」などが主催するゴミゼロ大作戦が和南川河川敷を中心に行われ、多くの方が美化清掃に汗を流しました。



「見て、飾って、味わえる野菜ブーケ」 ベジフルフラワー体験公開講座



5月18日、野菜料理講座の第1回講座として、ベジフルフラワーアーティスト和田直子さんを講師に迎え、ベジフルフラワーの体験公開講座を行いました。近江産の野菜や果物のみを使ったブーケに参加者は興味津々。お馴染みのキュウリや日野菜、初めて見るイタリア野菜の「カーボネロ」など11種の野菜を前に、その特性や美味しい食べ方を聞いた後、野菜に竹串を刺してそれぞれブーケ作りに取り組みました。

和田さんは「これからも近江の地元野菜の魅力を皆さんに伝えていきたい。そして生産者さんとのネットワークをもっと広げていきたい」と熱く語られました。（永源寺コミュニティセンターから情報提供）資格講座やワークショップ依頼など講師への連絡はMail：vegeFlower.nao@gmail.comへ



「地域のために」という思いをかたちに Doctor's Restaurant La MAISON RURale OPEN

ドクターズレストラン

ラ・メゾン・ルーラル 〈田舎の家〉 オープン

永源寺診療所敷地内に、ドクターズレストラン「ラ・メゾン・ルーラル」(田舎の家)が、5月29日にオープンしました。オーナーの花戸貴司所長にお話を伺いました。

Q レストランへの思いは。

永源寺診療所に赴任し、24年になります。今まで健康づくりから、病気の治療そして在宅医療まで地域の人たちが安心して暮らせる地域を目指してきましたが、医療だけでは足りない部分があると日々感じていました。地域をまるごと支えるために必要なことは、子どもからお年寄りまで多様な人たちが楽しく集える、おいしいものが食べられる場の提供でした。そのような思いを叶えるためにレストランを計画したのが今から4年



(上)おすすめのメニュー「ドクターズランチ」日替わりです
(下)木材をふんだんに使った店内。窓から見えるのどかな田園風景も特徴のひとつ

前。この間、世の中では様々な出来事があり、とりまく環境も大きく変わりましたが「地域のために」という思いは今でも変わりません。

Q お店のこだわりとおすすめは。

建物は木材をふんだんに使ったデザインで、特に机と椅子の材料は地元産のものを使用し、地元の木工作家小林朗さんに作っていただきました。食材も地元産の食材にこだわって、シェフの菊水さんに作ってもらっています。一番のおすすめは「ドクターズランチ」。全てのメニューは管理栄養士が監修し、塩分やカロリーはもちろんな栄養価にもこだわったメニューです。

Q これからについては。

生きがいやコミュニティとのつながりに思いを馳せ、診療所に来ない人のことも考えると、お出かけしたりおしゃべりしたり住んでいるだけで健康になれる、永源寺がそんな地域になればいいなあって思っています。結果が出るのは10年あるいは一世代(30年)ぐらいかかるかもしれませんが。それでも、これから「地域のために」というような場を提供し続けたいと思います。

今年も
超人気
超

春うたコンサート

また、永源寺福祉会の「えんがわ喫茶」のコーヒーや「ゆめ咲良会」の桜苗木や春餅の販売、そして「日本赤十字奉仕団」の募金活動も行われ、大盛況の内に終わりました。参加者は、「来年こそ永源寺桜に出会えますように!」とまたの機会を楽しみに会場を後にされました。(永源寺コミュニティセンターから情報提供)



(上)はなちゃんずのヨシ笛コンサート
(下)わ音のコンサート

春夏秋冬、季節の移り変わりを永源寺コミュニティセンターで楽しんでもらおうと4月15日、「永源寺桜春うたコンサート」を開催しました。当日はあいにくの冷たい雨で永源寺桜はすでに散っていましたが、館内は「わ音」の歌声や「はなちゃんず」のヨシ笛の音色に130人の来場者は、温かな雰囲気にも包まれました。



過疎と高齢化が進む箕川町。御池川に近く森に囲まれた小さな集落。「ここは人間らしい感動を味わえるところ」を合言葉に、この地域の良さを次世代に引き継いでいこうと、箕川未来協議会を設立し、まちづくりがスタートした。

代表の川嶋佳代子さん、副代表の井上慎也さん、そして、4月から箕川町に移り住んだ地域おこし協力隊の比良岡紡蘭さんにお話を伺いました。

やってみたいを実現するために

箕川未来協議会を発足

■「箕川を次世代に」と意気込む代表の川嶋佳代子さん■

「仕事に出掛け、夜帰ってくるだけ。地域のことを知らずに暮らしてきた。周りの人がお亡くなりになり、空き家が増えた。仕事を辞めて、この先どうなっていくのだろうか」と、初めて気づかされた。でも、箕川が大好きな人が残っておられる。今、何かアクションを起こさなければ」と、集落存続に不安を語るの、箕川未来協議会代表の川嶋佳代子さん。

箕川は、11世帯16人（2023年5月1日、住民基本台帳）の小さな集落。当然、過疎高齢化は進み空き家も増加している。

2020年8月、古民家再生で成功している兵庫県丹波篠山市の丸山集落を住民有志で視察に出掛けた。丸山は箕川より小さな集落。帰りの車中、「こんなことできたらいい。箕川でも是非ともやりたい」と皆が口を揃えた。「やりたいを言葉で

けで終わらせず、ちょっと前に進めることにしましょうか」と提案したのが副代表を務める井上慎也さん。こうして未来協議会が立ち上がった。メンバーは12人。賛同者は増えている。「みんなが元気なうちに行動すれば、次の世代に繋いでいくことができるのではないか。微かな希望が持てた。井上さんと一緒に行動していこう」と川嶋さん。ピースがひとつ噛み合った瞬間といえる。

■箕川で工房を構え、活動をサポートする井上慎也さん■

「わたしはサポートする立場。箕川の人はどうしていきいたのかを優先していきたい」と話す井上さんは、「自然に興味があったので大学で森林生態学を学んだ。同時に遊林会の活動にも参加して自然は観て愛でるだけでなく、木を使って主体的に関わることを実感した。面白かった。大学院のとき、かつて人が使っていた山の様子を調査する機会があり、日本の

自然は森が復元するポテンシャルを持っていると感じた」と。しかし卒業後10年間はシステム会社に就職。永源寺森林組合に勤める友人と話すうちに「森と暮らしを繋げる仕事をしたい」と退職を決意。学生時代に蒔かれた種が芽吹いたといえる。

その後、積み木であるクミノを開発し事業化。「森と川に囲まれた箕川の集落の雰囲気が入り、山と関わり合いの都会の人が、ここに滞在すれば社会的価値になる。可能性は無限大であると感じた」。よそ者を受け入れてもらえるかは信頼関係が決め手。クミノも事業化の目的が立った井上さんは、クミノ事業のことやこれからの山里づくりなどについて、集会所で地域の人たちに聴いてもらい、信頼を得て、退職1年後の2016年に箕川でツミキの工房を構えることになった。

■川の図書館を開設したい、夢を語る 比良岡紡蘭さん■

動ける人間が余りに少ない。この課題を克服しようと、地域おこし協力隊をアプローチし、今年4月、市から委嘱されたのが比良岡紡蘭さん。比良岡さんは、マレーシア生

要らなくなった「本」お譲りください



東京都調布市の多摩川河川敷で始まった「川の図書館」。13歳の女子中学生が始め、今では住民の交流の場として定着。さらに全国各地にその輪が広がっています。絵本、小説、実用書、専門書なんでもかまいません。要らなくなった本をお譲りください。連絡先：比良岡紡蘭（ひらおか ほのら） 箕川町 138-1
Email: 118tajihono1420@gmail.com tel 080-9504-2469

お話を伺った人たち
 右) 協議会代表の川嶋佳代子さん。
 中) (株)KUMINO 代表取締役で協議会副代表の井上慎也さん。
 左) 地域おこし協力隊として東京都調布市から箕川町に移住した比良岡紡蘭(ほのら)さん。



まるでシンガポール育ち。大学進学を機に日本へ。卒業後、俳優業のため東京都調布市に在住し、芸能プロダクションに所属する傍ら、自然豊かな地方での暮らしを考えるようになり、「森と川に囲まれ、真ん中に集落があり、守られた感じがする。自然の中で人間は生きていくんだと、気づかされるような場所」と市の地域おこし協力隊の応募を決意。御主人も滋賀県出身という。「滋賀は地震などの災害が少なく安全度が高い。琵琶湖にも魅力を感じたが、どうしても山里で暮らしたいという思いが強かった」。2か月余り住んで、「おばあちゃんたちに、いろんなことを教えてもらった。次に新しい人が箕川に住みたいとなったときに、私が助けられるように成長しなければならいと思うている」と。

「川が浅くてきれい。子どもたちが遊べる場所として最適。そこで川の図書館を開設してみたい。返却不要の自由な青空図書館。ママカフェ、縁側喫茶のきっかけにしたい。本さえ集まればすぐにでも始められると思うている。英語や中国語ができるので寺小屋などもでき

ば」とも。また、日本の自殺率の高さに触れ、「生きていくことに価値を見出す社会づくりが必要。人間らしい感動を少しでも体験できる場所にしていきたい」と抱負を語る。

■できることから、イベントを開催、古民家改修は最終目標

箕川未来協議会

「自治会であるので家長さんの寄り合いはある。日常のさりげないコミュニケーションもある。だけど、一歩踏み込んだ話し合いの機会は意外と少ないと感じた」という井上さんは、協議会立ち上げ後の会議では、箕川のいいところや地域を引き継ぐということ、地域の皆さんがどう思っているか、聞くところから始めたという。視察先で見た古民家を改修してホテル化することは最終目標。改修は可能か、ビジネスとして成り立つのか、人的資源も足りないと課題は多い。

それよりも、できることから始めようと、この春、山野草の体験イベントを開催。「大々的に公募しなくても、LINEで繋がっている人やその友だちが集まってくれて手応えを感じた」とは川嶋さん。井上さんも「少しずつ出来そうなく

やりたいことが見えてきた。もっと多くの人に出会える仕組みと仕掛けをしていきたい。そのひとつに空き家の劣化を防ぐ取り組みや空き家を片づけるワークショップの開催などを考えている。そのためには、先ずは信頼される非営利法人を作っていきたい」と話す。

「他所から来た若い人たちに刺激を受けている。フレッシュな考え方で、アイデアも豊富。情報網も違う。また、お年寄りの知恵と若い人の知恵が噛み合えば、できることがいっぱいある。地域内で補えないのなら地域外の人を取り込むことも可能である。山里での暮らし方もさまざまであると気づかされた」と、代表の川嶋さんが話を締めくくってくれた。

若い人のお母さんの存在の川嶋さんと、箕川の皆さん、「いいね」を付ける応援者、アプローチの仕方を計算しながらサポートする井上さん、新たな地で夢に向かう比良岡さん。いろんなピースが噛み合いどんな形が完成するのか、これらの活動が楽しみである。

いま、箕川が面白い、って!?

今、箕川、原風景と取り組みに注目が集まっています。

4月14日には、東近江市観光協会主催のまちあるき「山里に春訪れて 箕川、原風景に木の香り再び」が行われ、また、5月27日には、永源寺コミュニティセンター講座「子どもお宝探検隊」が箕川町で行われました。



右) 子どもお宝探検隊
 左) 観光協会主催のまちあるき



令和5年度総会終える

令和5年度の永源寺地区まちづくり協議会の総会を5月20日、永源寺コミュニティセンターで行いました。

総会には、自治会長や各種団体の関係者ら約80人の出席をいただき、提案した6議案すべてを原案のとおり可決承認いただきました。

開会あいさつで福井均会長は、「生まれて良かった、住んで良かった、来て良かったと、言ってもらえる永源寺地区を目指していきたい」

と挨拶されました。

令和5年度の事業計画案は、新規で取り組む事業などを中心に、6部会の部長から説明が行われました。

閉会挨拶で古谷孝副会長は、「人口減少は避けられない問題かもしれませんが、それぞれの立場で連携して元気な永源寺をつくっていきましょう。そのためにも積極的なご参加をお願いします」と呼びかけられました。



総会で挨拶する福井均会長

まちづくり協議会会計の決算と予算

(収入) 項目と説明	4年度決算額	5年度予算額
まちづくり総合交付金	3,005,000	2,996,000
補助金(事業に対する補助金)	70,000	70,000
自治会からの受入拠出金	782,000	785,000
事業収入(参加費・協賛金・広告料)	518,100	530,000
大型金属資源回収事業受託料	1,172,600	1,172,000
基金繰入金	0	350,042
諸収入(販売金・預金利息等)	219,904	112,761
前年度繰越金	1,243,155	1,084,197
合計	7,010,759	7,100,000

(支出) 項目と説明	4年度決算額	5年度予算額
会議費(総会・運営委員会等)	17,159	30,000
広報費(広報紙発行・記念誌発行)	1,345,925	700,000
まちづくり計画策定費	0	500,000
まちづくり計画事業推進費(別掲)	2,559,125	3,750,000
大型金属資源回収事業費	1,149,382	1,172,000
事業助成金(鈴鹿国定公園歩道整備)	70,000	0
事業補助金(自治連)	340,000	340,000
事業補助金(体育協会)	150,000	0
事業補助金(鈴鹿国定公園歩道整備)	0	70,000
まちづくり協議会連絡会負担金	18,500	0
事務局費(事務費・通信費等)	276,471	430,000
予備費	0	108,000
合計	5,926,562	7,100,000

コミュニティセンター指定管理会計の決算と予算

(収入) 項目と説明	4年度決算額	5年度予算額
指定管理受託料	32,397,000	31,497,000
事業収入(受講料)	178,000	178,000
諸収入(コピー機等使用料)	233,937	129,055
前年度繰越金	921,126	625,945
合計	33,730,063	32,430,000

(支出) 項目と説明	4年度決算額	5年度予算額
人件費(職員給与・手当・保険料)	17,535,455	17,950,000
事務費(消耗品費・消費税等)	2,709,569	2,480,000
管理費(光熱水費・施設管理委託料等)	11,708,810	10,830,000
事業費(講師謝礼・通信費等)	1,150,284	1,120,000
予備費	0	50,000
合計	33,104,118	32,430,000

■令和4年度末まちづくり基金現在高	2,502,650
-------------------	-----------

まちづくり計画事業推進費の内訳

(支出) 項目と説明	4年度決算額	5年度予算額
干草街道を往く	340,723	700,000
みんなの夏休み	197,675	300,000
星空観察会	10,000	0
大本山永源寺ライトアップ	395,227	400,000
いきいき活性化事業	180,180	200,000
国道421号美観事業	289,623	300,000
ごみのないまちづくり事業	84,840	150,000
花いっぱい運動	235,800	300,000
子ども応援事業	59,795	100,000
歴史探訪研修事業	0	50,000
笑顔で暮らせる事業	21,704	100,000
田舎で縁結び事業	0	100,000
安心安全事業	0	50,000
みんなのふるさと祭り	717,618	800,000
スポーツフェスタ	0	150,000
住めば都プラン推進事業	7,120	0
まちづくりフォーラム	17,896	50,000
みらい会議	924	0
合計	2,559,125	3,750,000



永源寺 お食事処

万葉香

一日一組限定

MAN-YO-KA



ランチ ¥4000～ディナー ¥6600～
完全予約制 お電話でご予約ください
TEL 0748-27-1167
東近江市甲津畑町 408

こんにちは保健師です ⑬

「さあはじめよう！

認知症予防」

今回からシリーズで「認知症予防」についてお届けします。

【認知症についての正しい知識】

老化によるもの忘れと認知症によるもの忘れは、どう違うのでしょうか？



山中保健師

	老化によるもの	認知症によるもの
体験や出来事についてのもの忘れ	体験したことや出来事の一部を忘れるが、体験のほかの記憶から忘れた部分を思い出すことができる。	体験したことや出来事のすべてを忘れてしまう。ヒントがあっても思い出せない。
物忘れへの自覚	自覚がある	自覚がない
物忘れの範囲	人物や時間・場所はよくわかる。	人物や時間・場所まで分からない。
日常生活の支障	大きな支障なし	支障がでる

★老化によるものが認知症にすすまないためには・・・どうしたらいいでしょう？

「軽度認知障害（MCI）」の段階で対処することが大事です。

MCI の段階で適切に対処すれば、特に最も多い認知症であるアルツハイマー型認知症への移行や悪化を予防または先送りできます。

（本人だけでなく家族など周囲の人も含めて異変のサインを見逃さず、かかりつけ医や専門医に早めに相談しましょう）

★次回は「どのように対処すれば予防ができるのか」考えてみましょう。

永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『売茶王の生涯』

ノーマン・ワデル著／思文閣出版

江戸時代の僧侶で、日本に煎茶を広めた売茶王こと月海。画家の伊藤若冲や与謝蕪村など、多くの著名人に影響を与えたことでも知られています。権力と結びつき、形式にとらわれるようになった当時の茶道をよしとしなかった彼は、京都にて通仙亭という喫茶店のような店を開き、誰もが気軽にお茶を楽しめる煎茶を広めました。その彼が殊更気に入っていたのが越溪茶こと政所茶。本書には、その素晴らしさを詠った漢詩も収録されています。この本は市内の図書館には所蔵していないため、県立図書館から取り寄せます。



『Leaf』2023 年 4-5 月号

永源寺相谷町にある築300年の古民家を改装した「飯屋み処」が紹介されています。居心地のよい店内には、図書室と古物店があります。

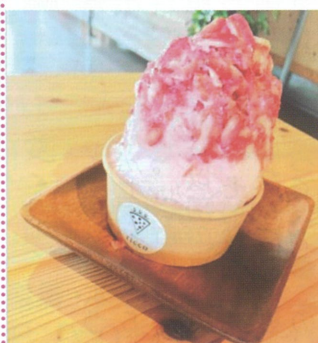


『SAVVY』2023 年 1 月号

永源寺地区・夢畑町の「石窯パンcafé つむぎ」が紹介されています。2018年にいったんお店を閉められた後、コーヒー職人である息子のジェルさんと一緒に再スタート。鈴鹿山系の美味しい湧き水を使った石窯パンとコーヒーが味わえます。



畑ピッツァ ricco(リッコ)

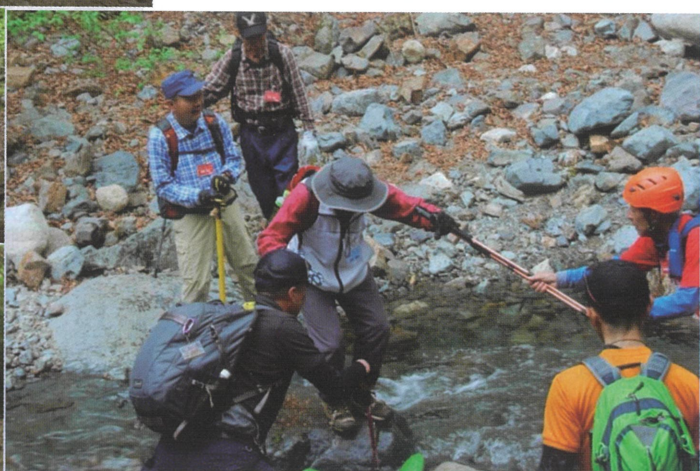
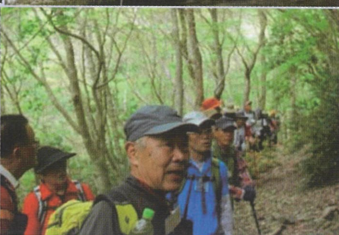


青野町 小杉豊農園併設

営業：夏休み期間の土日、かき氷のみ

営業時間：11時～15時ころ

千草街道を往く 2023



4月29日、恒例の「千草街道を往く」を開催しました。

6時30分、コミュニティセンターで出発式を行い、岩ヶ谷林道登山口までは観光バス2台で移動。今年は参加者25人、スタッフ12人で三重県朝明キャンプ場まで踏破しました。永山会メンバーにも協力をいただき、旧跡の案内や樹木、草花の説明を行っていただきました。参加者からは見ごろのヤマシャクヤク、シロヤシオやエンレイソウなどを見ながら自然を満喫できて良かったとの感想をいただきました。

杉峠での集合写真撮影では、参加記念にお配りしているタオルを掲げられる方が近年多くなってきていて、中には以前からの色違いのタオルを持参されている方もたくさんおられました。

開催までの一週間は天気予報とのにらめっこで、空模様が心配されましたが当日朝には実施することができ、朝明到着直後に降雨となり、日頃の行いの賜物とつくづく感じたところです。

現地での解散式には、交流を行っている菟野町の朝明観光協会の皆さんも出席いただき、秋には朝明から永源寺への山越えイベントをされる予定と挨拶いただきました。

17時30分にコミュニティセンターに到着し、待機スタッフのホットコーヒーなどのおもてなしをさせていただきました。

編・集・後・記

コロナ禍の長いトンネルからようやく抜け出し、感染症法上2類から5類へと移行されました。これに伴い色々な制限が解除され以前の状況に戻ることもありますが、その反面、医療費が原則自己負担になるなど今後の動向が気になるところです。●この3年間で世の中の生活スタイルが様変わりし、マスク着用が基本、学校ではオンライン教育導入、企業ではリモートワークにより自宅や遠隔地から仕事を行うことが増えました。このような状況から自然の中で暮らしたいなど田舎暮らしが見直されるきっかけになっているようです。私自身この数年で以前より地元の自然に目を向ける機会が多くなったと感じています。●マイブームは、春の訪れとともに地表に現れる、旬の山菜取りです。ウォーキングを兼ねて野山を散策しながらの山菜取りはストレス解消にもなり、食物繊維を多く含む食材は健康にも良くほろ苦い食材は旬を感じられます。その年の気温の変化や場所により出る時期が異なりますが、フキノトウ、コゴミ、タラの芽、ワラビ、フキなどが挙げられます。情報紙発行の頃は、フキも旬を過ぎる頃です。●さらに、琵琶湖から河川に遡上してくる小鮎も旬の食材です。先日、某河川に小鮎釣りに出掛け、釣れた小鮎は山椒煮で美味しくいただきました。●これからアフターコロナに向けて以前のような生活スタイルに戻らない部分もあるかと思いますが、自分に合った田舎暮らしの良さ、アウトドアの楽しさを見つめ直すのも良いかと思